

# 日本語教育部門活動報告 1 – 日本語相談 – (2012年4月～2013年3月)

濱田美和

## 1 はじめに

日本語教育部門では、2003年度から毎週水曜日の昼休みの時間帯を利用して、日本語教育部門の専任教員が留学生からの日本語に関する相談や質問に応じる「日本語相談」を行っている。これは、日本語に関する問題であれば、日本語の授業内容とは関係なく、アポイントなしで相談できるというシステムで、2012年度も、授業レポートの添削、進学・就職に関する日本語の文章のチェック、弁論大会出場のための練習、各種書類の内容確認など、多岐にわたる目的での利用があった。

以下、2012年度の「日本語相談」の実施状況について報告する。

## 2 「日本語相談」の概要

「日本語相談」の概要は次の通りである。

### 1) 実施場所

留学生センター1階の談話室において実施した。

### 2) 実施期間及び実施日時

毎週水曜日の昼休み12時から13時までの時間帯を利用して実施した。2012年度は、前期は2012年4月25日(水)から7月18日(水)までの全12回、後期は10月24日(水)から冬季休業をはさんで2013年1月30日(水)までの全12回、1年間に計24回実施した。なお、夏季休業期間は特定の実施日を設けなかったが、留学生から希望があった場合に相談に応じた。

### 3) 担当者

日本語教育部門の教員4人(加藤扶久美, 副島健治, 濱田美和, 後藤寛樹)が、1回ごとに交代して相談にあたった。

## 3 「日本語相談」の実施状況

### 3.1 「日本語相談」への来談者

前期, 夏季休業期間, 後期それぞれの来談者数を, 来談者の所属別に見ると, 表1のようになる。

表1 2012年度「日本語相談」来談者数(単位:人)

|        | 五福地区 |    |    |    |    | 高岡地区 | 計  |
|--------|------|----|----|----|----|------|----|
|        | 人文   | 人発 | 経済 | 理工 | 留セ | 芸文   |    |
| 前期     | 3    | 6  | 6  | 7  | 0  | 5    | 27 |
| 夏季休業期間 | 0    | 8  | 1  | 2  | 0  | 0    | 11 |
| 後期     | 7    | 1  | 3  | 6  | 4  | 0    | 21 |
| 計      | 10   | 15 | 10 | 15 | 4  | 5    | 59 |

\* 人文は人文学部と人文科学研究科, 人発は人間発達科学部, 経済は経済学部と経済学研究科, 理工は理学部と工学部と理工学教育部と生命融合科学教育部, 留セは留学生センター, 芸文は芸術文化学部を示す。

前期は、高岡地区からの相談者がいるが、この学生たちは五福地区の日本語課外補講を受講するために留学生センターに来たときに、日本語相談を利用してかなの練習を行った。また、工学部の留学生担当教員からの依頼を受け、日本語の作文の力が十分でない学部生のために、日本語相談の時間を利用して作文の指導を継続的に行った。夏季休業期間中は、弁論大会に出場する学生たちの利用が中心だった。後期は、10月に来日したばかりの短期留学生、教員研修生、研究生の利用が半数近くを占めた。

### 3.2 相談の内容

前期、夏季休業期間、後期それぞれの相談件数を、相談内容別に見ると、表2のようになる。

表2 2012年度「日本語相談」相談件数（単位：件）

|        | 日本語の発音・表記・文法・作文等に関する質問や練習 | 日本語の発音・表記・文法・作文等に関する質問や練習 | 大学の授業等に関連した相談（レポート添削等） | 学外での活動に関連した相談（スピーチ原稿の添削や練習） | 内容確認や添削等に関する相談（書類の内容確認や添削等） | 各種書類や掲示物に関する相談（書類の内容確認や添削等） | 削や面接練習等） | 進学や就職活動に関連した相談（作文添削や面接練習等） | 日本語の学習方法や日本語クラスの受講に関する相談 | 日本語の学習方法や日本語クラスの受講に関する相談 | 計 |
|--------|---------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------|----------------------------|--------------------------|--------------------------|---|
| 前期     | 14                        | 9                         | 2                      | 2                           | 0                           | 1                           | 28       |                            |                          |                          |   |
| 夏季休業期間 | 4                         | 0                         | 6                      | 0                           | 1                           | 0                           | 11       |                            |                          |                          |   |
| 後期     | 7                         | 8                         | 1                      | 1                           | 2                           | 2                           | 21       |                            |                          |                          |   |
| 計      | 25                        | 17                        | 9                      | 3                           | 3                           | 3                           | 60*      |                            |                          |                          |   |

\* 1人の相談者から複数の相談を受ける場合があるため、来談者数よりも多くなっている。

「日本語の発音・表記・文法・作文等に関する質問や練習」が最も多く、2番目が「大学の授業等に関連した相談（レポート添削等）」、3番目が「学外での活動に関連した相談（スピーチ原稿の添削や練習）」で、この3つで、全体の8割以上を占める。ここ数年、「日本語学習に関する質問や練習」と「レポート等の添削」での利用が中心となっている。

### 4 担当教員による打合せ

「日本語相談」は、日本語教育部門の専任教員が1回ごとに交代して実施している。2012年度は濱田がとりまとめを行い、他の教員と連携を取りながら実施した。担当教員による打合せは、各学期の開始前に行った。その内容は、「日本語相談」の実施日及び担当者の決定、実施のための広報活動等の業務分担である。学期中の引き継ぎは日誌を用いて行った。

### 5 おわりに

「日本語相談」は2012年度で10年目を迎えた。最初の5年間は、大学院入試科目「小論文」の練習のために毎週継続的に利用する学生が多かったが、その後は「日本語学習に関する質問や練習」と「レポート等の添削」での利用者が中心となり、毎週継続的に利用する学生が少なくなっている。そのため、来談者が多い日と全くいない日があるなどの問題も指摘されるようになった。現状においてどのような形で支援が最も効果的なのかを探りながら、留学生の日本語学習の支援体制を整備していきたい。